

2018年02月04日

描かれた人々ー福岡青嵐の写生画を中心に

香川県立ミュージアム 学芸員

鹿間里奈

1. 人を描くこと
2. 福岡青嵐の写生画
 - (1) 福岡青嵐とは？
 - (2) 4つの視点で見る青嵐の写生画

はじめに

風景画、人物画、静物画…、古代から現代にいたるまで様々な絵画作品が生み出されてきました。その中で、人物画に限らず風景画にも人が登場することは周知の通りでしょう。本講座では、描かれた人々を追っていくことで、絵画の鑑賞における楽しみをひとつ紹介できればと思います。

1. 人を描くこと

絵画の中の人を見るにあたっての視点（一例）

人数	1人 / 2～3人 / 数えきれない / …
人物	性別 / 年齢 / 身分・職業 / …
表情	真顔 / 笑顔 / 怒る / 泣く / …
姿	立つ / 座る / 歩く / …
構図	画面いっぱい / 人の配置 / 風景と人 / …
場面	仕事 / ハレの場 / 遊ぶ / …
目的	人に焦点（礼拝・顕彰） / 登場人物として / …

2. 福岡青嵐の写生画

- (1) 福岡青嵐とは？

①福岡青嵐（ふくおかせいらん）

明治12年（1879）～昭和29年（1954）

熊本出身、明治36年（1903）7月に東京美術学校卒業

大阪美術学校で指導 大正13年（1924）開校、教授として指導

青龍社展に出品 第5回展（昭和8年・1933）初出品、昭和10年（1935）に社人

新聞挿絵で活躍 「新書太閤記」（吉川英治 読売新聞・1939-45）など

②青嵐と香川

明治36年（1903）～39年（1904）、善通寺町（現在の善通寺市内）に滞在。

東京美術学校を卒業後、善通寺にて軍医をしていた兄を頼って香川を訪れる。

・滞在中に訪れた場所

善通寺、屋島、栗林公園、琴平、満濃池、小豆島など

・青嵐香川滞在中の日本および香川県の動き

明治 36 年 (1903)	6.13	高松汽船会社、高松・神戸・大阪間に航路開設
	7.30	讃岐電気株式会社が丸亀・多度津方面で電灯営業開始
	10.17	最後の高松藩主・松平頼聰 ^{よりとし} 死去
明治 37 年 (1904)	2	日露戦争(~1905.9)
	3.22	善通寺第十一師団に動員令
	6.1	県庁と各郡役所間に電話架設
	12.1	讃岐鉄道会社を山陽鉄道会社が併合
	7~12	県下汽車乗降人員 218 万 751 人
明治 38 年 (1905)	1	夏目漱石『吾輩は猫である』発表
	5.5	仲多度郡白方村の施設にロシアの俘虜約 1,000 名を収容
	7.16	金刀比羅宮宝物館開館
明治 39 年 (1906)	1.14	最後の旧多度津藩主・京極 ^{たかまさ} 高典死去
	4.12	高松市内で日露戦争戦病死者 112 名の招魂祭
	12.1	山陽鉄道、国有鉄道化

(2) 4つの視点で見る青嵐の写生画

①顔

- ・表情
- ・描く対象
- ・描写の仕方

②仕草

- ・アングル
- ・体の動き

③生活

- ・日常と人
- ・構図

④自然

- ・デフォルメ
- ・自然との比較

おわりに

「人」…人の姿は身近な画題であり、描き方は様々

→そこに人を描いた意味がある

福岡青嵐の写生画に登場する人々…表情豊かで生き生きとしている

→青嵐の観察力・描写力の高さ